

第10章 地域課題解決型産業による地域の活性化

1 研究目的

板橋区は、都内はもとより全国的にも有数の産業のまちである。戦前から火薬製造や光学兵器などの産業が栄え、戦後には精密機器・化学・非鉄金属などを中心とした工業が盛んとなり、1965(昭和40)年代頃からは印刷関連産業が集積し、いずれも区の代表的な産業に発展している。2003(平成15)年度工業統計調査によると、板橋区の製造品出荷額等は23区中第2位であり、印刷関連業にいたっては全国1位となっている。

この高い地域産業力を活かして、身近な地域の課題を解決できないだろうか。そして課題解決の行動を通じて地域が活性化し、それと同時に産業の活性化にも資するのではないか。

これらの問題意識から本研究のテーマが生まれてきた。

未解決の地域課題と区内に集積する高い産業技術が会うことによって、そこに新たなビジネスが生まれ、新たな技術の創出に繋がる可能性がある。そして、当該地域課題が一般的なものであればあるほど、新技術の普遍化、ひいては新産業の創出へと導かれていく。

このような新産業を「地域課題解決型産業」と呼ぶとすれば、本研究における問題提起は次の3点である。

- ①板橋区で地域課題解決型産業を創出するにはどのような枠組みが必要となるのか。
- ②その枠組みでは、どのような主体がどのような役割を演じるのか。
- ③地域課題解決型産業を創出することで地域活性化や産業活性化にどのような効果があるのか。

これらの問いに答えることが、本研究の目的である。

2 研究方法

本研究は、大東文化大学と板橋区が共同実施する第4期地域デザインフォーラム第3分科会の研究テーマ「 μ プラン～学生が育つまち、育てられるまちを計画する～」の下、サブテーマの一つとして行うものである。したがって、本研究の目的を達成するために、大東文化大学周辺地域をモデル地域として、同大学と連携しつつ研究を進めていくこととなる。

研究方法としては、概ね次のとおり予定している。

- ①区内企業及びその保有する技術の整理
- ②モデル地域における地域課題の整理
- ③モデル地域における地域資源の整理
- ④地域課題と区内産業技術との出会いの場の創出
- ⑤モデル地域で求められる地域課題解決型産業の分析と論点の整理

3 研究の中間報告

本研究のテーマに関して、これまで研究してきた点について以下に報告したい。

(1) 地域課題解決型産業の性格

地域課題解決型産業とは本研究における造語であり、一般的に使われてはいない。意味するところは言葉のとおりで理解しやすいと考えるが、ここでその性格についていくつかの視点から整理したい。

コミュニティビジネスとの関係

地域課題の解決を目的とするといえ、コミュニティビジネスが頭に浮かぶ。コミュニティビジネスの定義は様々であるが、共通していることは、地域住民が地域課題をビジネスの手法で解決することである。したがって、コミュニティビジネスも地域課題

解決型産業の一つであるといえる。

ところで、『2006年版中小企業白書』によると、コミュニティビジネスに近い概念として「まちなかのにぎわいをつくり、あるいは支えるビジネス（にぎわいビジネス）」を挙げ、これを「まちの魅力」、「生活支援」、「経済活力」及び「交通便利」の4分野に類型している。これらについては、産業技術による課題解決という視点はあまり見えてこない。

光学関連や精密機械加工分野に多数集積する区内中小企業の技術力は、地域が抱える課題解決に際して大きな役割を果たすことが期待されている。従来のコミュニティビジネスの括りには入っていない、産業技術による直接的な課題解決手法が、本研究で中心的に論じられる内容である。

横断的視点を与える産業技術の活用方策

世の中の製品やサービスは、すべて何らかの産業技術によって支えられているといっても過言ではない。これを十分認識すれば、あらゆる課題解決に際して産業の視点から何らかのヒントを与えることが可能であろう。

板橋区の施策においても同様である。現状では産業振興部門とその他の部門との連携はあまり多くはない。地域の関連団体も、福祉団体は区の福祉部門、環境団体は環境保全部門というように、縦割りの行政分野の中では相互の連携があっても、異なる分野同士の横のつながりは希薄なようである。

防災・防犯、少子化、環境などの地域課題に産業の視点から解決のアプローチを与えていくことは有効である。分野ごとに産業力を活用した解決メニューを設けて、優れた解決策を区の担当部門に採用してもらうよう働きかけていくことも将来的には考えられる。

東京都施策との整合性

2006(平成18)年12月に東京都は、「10年後の東京～東京が変わる～」と題する計画を発表した。これは2016年のオリンピック招

致に向けた計画であり、10年後の東京に向けた施策が網羅されている。その中で産業振興施策に言及する部分には、本論のテーマと一致する表現が存在する。

計画では、これからの政策展開として、「都市機能の向上を踏まえ、東京の持つ豊富なポテンシャルを活かして、東京の将来を支える都市型産業（「創造的都市型産業」）を、重点的かつ戦略的に育成していく」としている。この「創造的都市型産業」とは、「社会的課題対応型産業」、「情報発信型産業」、「都市機能活用型産業」の3つに分かれている。

「社会的課題対応型産業」とは、環境・健康・医療・福祉、危機管理における課題解決のための産業を育成していくこととする。すなわち、地域の産業力を活かすことで地域課題解決と産業活性化の2つの目的を達成することを狙っている。

(2) 板橋区における地域課題解決型産業施策

現状では地域課題解決型産業施策という名称で括られたものはない。しかし、単なる産業振興施策ではなく、地域課題解決を目的に産業力の活用を手段として実施されているものがある。ここでは、代表的な施策を紹介する。

KICCプロジェクト

KICCとは、Kita,Itabashi,Cluster,Communityの略である。

板橋区と北区には、健康・医療・福祉関連施設や光学機器、理化学機器、製薬など高度な技術を持った研究開発型企业・知識集約型産業・研究機関、あるいは人材など、多様な地域資源が存在している。これらの地域資源を総合的かつ最大限に活用して、健康・医療・福祉関連産業を活性化することを目的として、板橋区が北区とともに2004(平成16)年度から実施しているのが、KICCプロジェクトである。

地域に存在する産業技術力を活かして、健康・医療・福祉の課題を解決することを通して、産業の活性化を目指している。

なお、これまでの連携活動から以下の2つの製品が生まれた。

①「ピーチパンツ」(転倒骨折予防用下着)

KICCのメンバーである(有)スタジオ・トミが、同じくメンバーの縫製企業の協力を得て、東京都産業技術研究センターの技術指導を受けて開発した製品である。

2006(平成18)年5月から販売を開始したところ、朝日新聞やラジオ文化放送など多くのマスコミに取材されるなど反響があった。

同年9月には東京都老人総合研究所の鈴木副所長が、転倒骨折予防をテーマに「きょうの健康」(NHK)に出演し、当該下着を紹介する場面もあった。

同年11月には、板橋区老人クラブ連合会理事会においてプレゼンテーションを行い、好評を得た。

現在、東京都中小企業振興公社の支援を受けて、更なる販路開拓に努めているところである。

②「マインレット夢」(安否確認機能付き介護用自動排泄処理機器)

「マインレット夢」は、KICCのメンバー企業である(株)エヌウィックが開発した製品である。この製品も東京都老人総合研究所に技術的アドバイスを受けている。

また、開発の最中には、板橋区立おとしより保健福祉センターの協力を得てモニターを紹介してもらうなど、区からの支援もあった。

2006(平成18)年9月開催の国際福祉機器展では、福祉施設関係者など多くの人々の関心を集め、「介護者及び被介護者双方の負担軽減に効果がある画期的な製品である」などとして高い評価を得た。

同年12月の発売開始以降、順調に販売実績を上げており、全国的な販売網も構築中である。

板橋区自律移動支援プロジェクト

板橋区は、だれもが安全で暮らしやすいまちづくりに向けて、

ユニバーサル社会の実現を目指している。板橋区自律移動支援プロジェクトは、ICタグなどのユビキタス産業技術を活用して、そうした社会の実現を図るものである。

2006(平成18)年度には、東武東上線大山駅踏切周辺において実証実験を行っている。実験の概要は以下のとおりである。

①目的

板橋区におけるユビキタス社会実現に向けた実証実験を実施することにより、ユビキタス技術の可能性を検証するとともに、新製品開発や市場醸成などの区産業の活性化に繋げていく。

②実施事業

東武東上線大山駅踏切周辺における実証実験

③実施日

2006(平成18)年8月10日(木)

④実証実験の内容

ICタグなどの情報新技術を活用した機器に係わる次の3点について、東武鉄道(株)の協力を得て、全国で初めて踏切周辺での実証実験を行う。

_ 機器の動作検証

_ 機器設置場所の検討

_ 情報提供内容(移動経路、交通手段、目的地)の検討

※踏切周辺に設置された情報発信装置から、情報受信装置を携帯する歩行者(実験対象者)に対して、現在の位置、踏切までの距離、遮断機の開閉状態などに関する情報を提供する。

⑤実験対象者

_ 健常者 最大20名(区職員等)

_ 障がい者 最大5名(障がい者福祉課からの紹介)

4 今後の研究予定

今後は、モデル地域における地域課題の整理を行うとともに、それら地域課題と区内産業技術とが出会う場を実験的に創出してみたい。

実験を通して、モデル地域で求められる地域課題解決型産業のあり方を分析するとともに、今後議論すべき論点の整理も行っていく予定である。